

概要報告

CITES 掲載種分類学能力構築

(1) 開催概要

1. 開催日時：平成 31 年 2 月 24 日～2 月 27 日
2. 開催場所：マレーシア・クアラルンプール
研修生：インドネシア、タイ、カンボジア、ベトナム、マレーシア、ラオス、フィリピン、モンゴルから計 16 名
3. 講師（3 名）：
【CITES 専門家】
 - ・ Rod Hay 氏（ニュージーランド、元 CITES 事務局職員）【ラン科分類学専門家】
 - ・ Irawati 氏（インドネシア、インドネシア科学院教授）
 - ・ Ong Poh Teck 氏（マレーシア、ラン科専門家）

(2) 研修の背景及び目的

東・東南アジア生物多様性情報イニシアティブ（ESABII ; East and Southeast Asia Biodiversity Information Initiative）の取組として、東・東南アジア地域を対象に、過去の業務成果を踏まえ、ワシントン条約（CITES）附属書掲載種の違法取引防止に必要な分類学能力構築のための講師養成研修（ToT ; Training of Trainers）を実施するものである。

豊富かつ貴重な生物多様性を有する ASEAN 地域及びモンゴルにおいてはその保全を推進するための人材育成が依然として不十分であり、加えて、自国で研修を実施できる人材を養成したいとの要望が ASEAN 各国等から多く寄せられていることから、本研修においては、研修を自ら計画・実施できるような講師を育成することを目的とする。

また、今年度の研修においては、ラン科を中心とする CITES 附属書掲載種の違法取引防止に資するための講師養成研修を開催した。

1 日目

研修初日の開会式では、主催者である環境省生物多様性センターの齋藤佑介氏より、充実した研修になるよう期待するという旨が述べられ、4 日間の研修がスタートした。開会式終了後、アイスブレイクとして各参加者の挨拶を兼ねた自己紹介の時間が設けられ、また、Rod Hay 氏により各参加者の CITES に係る理解度を把握するための事前アンケートが行われた。

初日は CITES の一般的知識の教授に焦点を当て、CITES 専門家の Rod Hay 氏によ

る講義では、研修生が自国で CITES 研修を実現するにあたっての基本原則や心得のほか、CITES とは何かという一般知識から始まり、CITES の附属書や取り組みに関する概要の講義がなされた。また、午後の講義では、CITES の法的条件（Legal Requirements）として、法制度の概要や CITES に係る管理部門（Management Authority: MA）、科学部門（Scientific Authority: SA）の説明がなされた。そのあと、取引許可書や実際の手続き等に関する解説が行われた。

最後の講義としては、参考資料として講師の Rod Hay 氏から 6 種類のワークシートが配られ、かつ多種多様な具体例をもとにした実践的な内容の講義となった。

2 日目

冒頭、初日の CITES に関する一般講義の続きとして Rod Hay 氏による植物の識別に関する講義が行われた。識別に関する基礎内容の説明ののち、様々な具体例を用いて、CITES に関する識別能力の実習や、その識別方法としての手順の説明があり、前日から続く CITES に関する基本的な内容から、より実践的かつ応用的な講義が行われた。

休憩後、本研修のテーマであるラン科に関する講義として、ランの専門家であり CITES への造詣も深い Irawati 氏による CITES 掲載種としてのラン科の紹介及び附属書を概観しての導入が行われた。また、ラン科分類学の専門家である Ong Poh Teck 氏による分類学の講義が行われ、ラン科植物に関するさまざまな分類学に関する講義が行われた。

また、引き続き Ong Poh Teck 氏により、マレーシアにおけるラン研究及び自国内に自生するラン科の概要が説明された。マレーシアにおけるラン科植物栽培施設（Orchid Nursery）や標本室（Herbarium）などの紹介がされた。実際の標本を研修生に見せながら、標本採取の手順やラン科の分類に関する講義ののち、各研修生が実際に分類に関するワークシートに取り組みながら理解を深めた。

3 日目

本研修における主要テーマであるラン科植物についての識別能力育成のため、フィールド実習として、クアラルンプール近郊にあるラン科植物栽培施設「Kama Nursery Centre」を訪問した。同施設では、施設担当者 2 名から、施設案内及び栽培されているラン科植物について説明を受けた。また講師からも、ラン科植物の識別方法や識別における課題等について説明を受けるとともに、様々なラン科植物を実際に観察しながら、種の識別実習等を行った。

4 日目

研修最終日となる 4 日目には、3 日間の研修内容を踏まえ、グループでの意見交換が引き続き行われた。識別能力及び講師養成という二つの課題を柱として実施された本研修の意図を踏まえ、前日に講師より与えられた課題である識別シートを用いた種の識別

の議論を行った後、各国において研修を実施する場合を想定した課題等の意見交換を行った。その後、将来的に自国で運営する研修の運営シミュレーションプログラムの具体的策定を目的とし、今回の研修で学習した内容を踏まえ、参加各国に分かれて各自で研修プランを検討・作成し、口頭発表を行い、講師を勤めた専門家からの指摘や提案などによって、発表内容に対してより実施具体性を持たせる議論が行われた。

閉会式では、主催者である環境省生物多様性センター・齋藤氏が挨拶し、講師及び派遣機関等協力者へ謝辞の後、すべての研修生に対し、今回の研修内容及び資料を有効活用し自国において講師として活躍することを強く希望すると述べた。また、講師を務めた各専門家からも講評の後同様の意見が述べられた。

最後に、参加者に対して研修終了証を授与するとともに、本研修で使用された教材、講義資料及び写真等を電子データとして配布し、閉会した。



集合写真



講師による指導



フィールド実習



グループでの意見交換